

給水装置等の漏水に係る水道料金の減免に関する要綱

平成 22 年 3 月 26 日

訓 令 第 3 号

改正 平成 23 年 9 月 30 日 訓令第 4 号

(趣旨)

第 1 条 この要綱は、淡路広域水道企業団水道事業給水条例（平成 21 年淡路広域水道企業団条例第 5 号）第 32 条及び淡路広域水道企業団水道事業給水条例施行規則（平成 22 年淡路広域水道企業団規則第 4 号）第 29 条の規定に基づき、給水装置等の漏水があった場合における水道料金の軽減又は免除（以下「漏水減免」という。）の基準について、必要な事項を定めるものとする。

(漏水減免の対象)

第 2 条 漏水減免の対象は、次の各号のいずれかに該当し、漏水発覚後速やかに修理を行った場合とする。

- (1) 地中埋設部、床下、壁面内部等で発見し難い箇所における漏水
- (2) 水道使用者又は所有者（以下「使用者等」という。）が善良な管理をもってしても管理できなかつたと認められるもの
- (3) 企業長が必要と認めるもの

(漏水減免の対象外)

第 3 条 漏水減免は、次の各号のいずれかに該当する場合は、行わないものとする。

- (1) 漏水の発見が容易であると判断されるとき。
- (2) 不正な給水装置工事による漏水
- (3) 使用者又は第三者の故意又は過失と認められるとき
- (4) 漏水が確認され、漏水修理を指摘されたにもかかわらず、正当な理由なく修理を引き延し、又はその他の処置を怠った場合
- (5) 蛇口、貯水・受水槽等（本体及びボールタップ等の水位調整器具）又は給湯器等の給水器具本体の故障による漏水
- (6) 減免の処分の決定後 1 年以内に同一箇所から漏水があった場合
- (7) 給水装置工事の竣工後 1 年以内に漏水があった場合

(漏水減免の対象期間)

第 4 条 減免の対象期間は、漏水に起因して使用水量が最も増加したと認められる 1 期分とする。ただし、特段の理由があり、特に必要と認めた場合は、

2 期分を限度とする。

(漏水減免水量の算定方法)

第 5 条 減免対象期間の直近前 3 期の平均使用水量又は前年同期の使用水量のいずれか小さい方の使用水量を、漏水がなかったと仮定した場合に使用したと推定される水量(以下「推定使用水量」という。)とし、減免前の検針水量(以下「減免前水量」という。)から推定使用水量を差し引いた値を漏水認定水量とし、漏水認定水量の 2 分の 1 の値を減免水量とする。また、減免前水量から減免水量を差し引いた値を減免後請求水量とする。

2 長期漏水のため推定使用水量の把握が困難なときは、前項の「直近前 3 期」とあるのを「漏水修理後 3 期」と読み替えるものとする。

3 第 1 項の推定使用水量及び減免水量に 1 立方メートル未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てる。

(申請手続)

第 6 条 漏水により料金の減免を受けようとするときは、淡路広域水道企業団の指定給水装置工事事業者による漏水修理工事完了後、水道料金漏水減免申請書(様式第 1 号)に必要事項を記載して申請しなければならない。

2 前項の申請は、修理工事を施工した指定給水装置工事事業者を通じて申請しなければならない。

(減免の可否の通知)

第 7 条 企業長は、前条の申請書の提出があった場合は、速やかに当該申請書に記入された漏水箇所、修理の事実等について調査を行い、減免の可否を決定するものとする。

2 企業長は、前項の規定による減免の可否の決定をしたときは、直ちに水道料金漏水減免決定通知書(様式第 2 号)又は水道料金漏水減免却下通知書(様式第 3 号)により、申請者に通知するものとする。

(水道料金の充当)

第 8 条 減免措置を受けた水道料金については、使用者の水道料金の未収金に充当できるものとする。

(その他)

第 9 条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、企業長が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この訓令は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

- 2 この訓令は、施行日以後の申請に係る水道料金の減免から適用し、施行日前の申請に係る水道料金の減免については、統合前の洲本市水道事業給水条例（平成 18 年洲本市条例第 222 号）、南あわじ市水道事業給水条例（平成 17 年南あわじ市条例第 167 号）又は淡路市水道事業給水条例（平成 17 年淡路市条例第 261 号）の規定による。

附 則（平成 23 年 9 月 30 日訓令第 4 号）

この訓令は、平成 23 年 10 月 1 日から施行する。

様式第1号（第6条関係）

淡路広域水道企業団 企業長 様

年 月 日

水道料金漏水減免申請書

給水装置等の漏水に係る水道料金の減免に関する要綱第6条の規定に基づき、水道料金の減免を申請いたします。

給水装置 使用場所			
使用者名	⑩	お客様(使用者) 番号	
電話番号		メータ番号	
申請理由	発見し難い箇所からの漏水があり、使用水量が多くなっております。そのため、工事写真（修理前、修理状況、修理後、メータ指示数）を添えて申請しますので、水道料金の一部を減免していただきますようお願いいたします。		
漏水箇所	1 埋設部【地下・床下・壁の中】※【】内の該当箇所を○で囲む。 2 上記以外で発見し難い箇所【 】※【】内に具体的に記入。		
誓 約	今後は給水装置の維持管理について善良な管理者の注意をもって管理いたします。 また、漏水によるものであっても淡路広域水道企業団水道事業給水条例に制定された料金を納付することを誓約します。		
修理日	年 月 日	指針	m ³
修理内容	※修理内容・原因等がわかるように。 (例:老朽化によりVPφ13継ぎ手(ソケット)部分から漏水し、同材質により修理した。)		
修理箇所(略図)は、下記のとおり。 ※平面的に箇所がわかるように。			
修理工事の写真は、別添のとおり（修理前、修理状況、修理後、メータ指示数を貼付）			
申請理由及び修理内容は、上記のとおり相違ありません。			
指定給水装置工事事業者			年 月 日
			⑩

※ 枠内は、記入漏れのないようご記入ください。

※ 必ず写真が必要なので、裏面又は別紙に貼付してください。

《漏水修理写真》

1 修理前

2 修理状況

3 修理後

4 修理後のメータ指示数

様式第2号（第7条関係）

年 月 日

水道料金漏水減免決定通知書

様

淡路広域水道企業団企業長

あなたから申請のありました水道料金漏水減免について、下記のとおり使用水量を認定し、水道料金の漏水減免を決定したので通知します。

記

1 対象となる水栓

お客様番号		修繕年月日	年 月 日
減免対象月	年 月 検針分	水 量	m ³
使用者名			
水栓所在地			

2 推定水量の算出

（ 3 箇月平均）

調定年月	使用量
	m ³
	m ³
	m ³
平均	m ³

（前年同月水量）

調定年月	使用量
	m ³

推定水量 _____ m³

3 減免後請求水量

（1） 漏水量

（2） 減免水量

（3） 減免後請求水量

4 減免後請求

様式第3号（第7条関係）

水道料金漏水減免却下通知書

年 月 日

様

淡路広域水道企業団
企業長

あなたから申請のありました水道料金漏水減免について、下記の事由により漏水減免の対象となりませんので、通知します。

記

漏水減免の対象とならない事由